『児童発達支援自己点検及び評価シート』

作 成 日:<u>令和5年5月18日</u>

事 業 所 名: VIVO HOUSE アンツ美原

		現在の取組内容・今後の改善目標(内容)
	①支援内容にあった指導訓練	療育プログラムは、主に1階訓練室で実施しています。
	室・相談スペース等の確保	2階訓練室でおやつやお弁当を食べたり、食育プログラ
		ムでクッキング等を実施しています。
		トイレは比較的スペースがありトイレトレーニング、身
		体介助ができます。
	②職員の専門性・配置数	管理者兼児童発達支援管理責任者 常勤 1名
	あい・さかいサポートリーダ	保育士 常勤 1 名、非常勤 1 名
	一の配置の有無	児童指導員 常勤2名、非常勤4名
		指導員 非常勤 7 名
		あい・さかいサポートリーダーの配置人数 2名
1	③送迎体制・添乗員の確保	地域の子ども園等への1名お迎え送迎の際、添乗員なし
環境		でお迎えに行くことがあります。
•	④合理的配慮の視点に基づく	視覚支援に力を入れています。
体制	環境整備	下駄箱、カバン置き場にご利用されるお子さま方の写真
 制 整 備		カードを設置して収納を促しています。
Pin		またホワイトボードには、お子さま方とスタッフの写真
		カードと一日のデイサービスのプログラムの流れを絵カ
		ード、写真カードを掲示して見通しを立てられるように
		工夫をしています。
		体温調整の苦手なお子さまについては、空調機による室
		温調整や保冷剤を使って体温調整に配慮しています。
	⑤職員の健康診断の実施	昨年度の健康診断、インフルエンザ予防接種の受診状況
		健康診断
		・常勤職員 4名
		・非常勤 4名
	①アンケート等による利用	令和4年12月1日から12月20日までの間に『保護者様
	児・保護者のニーズの把握と	向けアンケート』を実施。配布・回収をおこないまし
	フィードバック	<i>t</i> =。
2		結果のフィードバックについては集計表の閲覧と令和5
業		年 5 月の全体ミーティングで共有を行いました。
業務改善	②職員の支援技術の向上・虐	月例のスタッフミーティングで個別児童の対応や保護者
善善	待防止等の研修	モニタリングのフィードバックにより支援情報の共有を
	(障害児通所支援事業者育成	図っています。また、昨年度、内部、外部研修を計 10 回受
	事業利用の有無)	講し職員個々の支援技術の向上に努めています。
		特に愛着障害についての研修を実施しました。

		VI - I
	③虐待防止等のための責任者	令和3年度に施設運営責任者を虐待防止責任者として設
	を設置	置しました。
	④利用児、保護者からの苦情	昨年度2件の苦情、意見についてご指摘をいただきまし
	や意見への対応及び事業運営	た。主に帰宅後の保護者様が児童のケガを発見した場合
	への反映	にお伺いするケースが大半です。
		当日どのような事があったのか関係者に聞き取りを行
		い、スタッフミーティング等で情報共有、合理的配慮の
		必要性の検討、対応策の PDCA を行っています。
	①児童発達支援管理責任者に	アセスメントについて、令和元年度から「太田ステージ
	よる児童発達支援計画の作成	の評価法」を取入れ全利用児に <u>言語解読能力テスト</u> を実
	(アセスメント・利用児及び	施。また日常生活の能力評価として S-M 社会生活能力検
	保護者の意向確認・計画案の	査(第3版)を実施し、個々の発達の課題についての把握
	作成・会議開催・計画の保護	に努めました。
	者への説明及び交付)	モニタリングの実施に基づき管理者兼児童発達支援管理
		責任者と常勤職員で個別支援計画会議を開催し個別支援
		計画書を作成しています。
		個別支援計画の内容としては長期、短期の支援目標と支
		援内容を設定し、具体的な行動目標になるように設定と
		評価ができるようにしています。
	②モニタリングの実施、計画	6 か月に1度、保護者様にお電話またはご来所頂いてモニ
	の見直し	タリングを実施しています。
3		期間内の活動記録とアセスメントをもとに児童発達管理
適切		責任者がモニタリングシートに解決するべき課題をあ
		げ、モニタリングの際にはご家庭、他施設でのご様子、
支援		生活上の問題点、新たなニーズ、他の福祉サービスの利
な支援の提供		用状況などをお伺いしています。
供	③個別の課題に対応した活動	上記 3-①の「太田ステージの評価」を基に個々の発達課
	内容・プログラム	題に合わせた <u>自立課題の取組み</u> が定着しています。
		ハサミ、ノリ、テープなどの日用品や道具を活用して
		「微細運動」を中心にした創作・療育プログラムを取り
		入れています。
		お子さま方が積み重ねて練習できるような工夫と課題を
		設定して、少しずつでもできることを増やしていきたい
		と考えています。
		また、ご家庭だけでは経験・体験する機会の少ない道具
		や工具、コンピュータ、周辺機器なども積極的に活用し
		て療育プログラムに取り入れています。
		日々の歩行訓練では公園、消防署、神社、駅、区役所、
		本屋、田んぼなどに行き近隣の方々と触れ合うことで社
		会性の向上を目指しています。
		会性の向上を目指しています。

	T	
		食育プログラムとしては、おやつクッキング、お昼ご飯
		クッキングを月に数回実施し、嫌いな食べ物、苦手な食
		べ物でも食べられるようになったという事例が多数あり
		ます。
	④ミーティング等の実施	・毎朝の朝礼
		当日のご利用のお子さまついての保護者様からの利用の
		変更、送迎時間確認、体調面などの連絡事項を管理者か
		ら職員に連絡を行っています。
		また、欠席者、非常勤職員への情報伝達をもれなくおこ
		なうためメールによる情報共有を行っています。
		・月1回のスタッフミーティング
		月内のヒヤリハット・事故報告、苦情、忘れ物、利用日
		の変更・追加、モニタリングの実施報告、活動プログラ
		ムの説明等を中心に情報共有を行っています。
		また、各スタッフから個々の利用者様の支援内容で気づ
		いたことや感じたこと、疑問に思っていることを話し合
		っています。
	⑤支援内容の記録	日々の活動内容を <u>サービス提供記録としてスマホやパソ</u>
		<u>コンで写真付きで閲覧できます。</u>
		また、支援内容の記録として個々のプログラムの取り組
		み状況、制作物の返却状況、おやつクッキングやお昼ク
		ッキングでの食事状況を記録しています。
	①サービス担当者会議への参	地域の子育て支援課(家事相)、相談支援事業所、学校と
	加(障害児相談支援事業所と	の連携で該当するお子さまのサービス担当者会議に定期
	の連携)	的に参加をしています。
		また、相談支援事業所からのモニタリング時の見学も頻
		繁にあり、積極的な協力と情報交換をしています。
		保護者様からお子さまの「統一した支援を受けたい」な
4		どのご相談をいただいた際には、相談支援事業所と連携
題		して保護者様主導でサービス担当者会議を設営する場合
関係		もあります。
係機関-	②認定こども園・幼稚園・保	子ども園等のお子さまは、送迎時に担任の先生からの引
ら	育園、保健センター等との連	継ぎを中心に当日のご様子を確認しています。
· 連 · 携	携	また必要により相談支援事業所、家児相との連携により
携		ご家庭の様子を把握する場合が有ります。
	③他の児童発達支援事業所、	相談支援事業所との連携では、お子さまの利用状況を定
	児童発達支援センター、障害	期的に、FAXまたはメール、電話で報告をしていま
	福祉サービス事業所等との連	す。
	携	課題としては、他の放課後等デイサービス事業所の連携
		は現在あまりとれていないので、堺市放課後連絡会の地
		区会などをとおして連携を深めたいと考えています。

④ (特に医療的ケアを必要と	現在、医療的ケアを必要とするお子さまのご利用はあ
する利用児について)主治医	ませんが、必要の際は当事業所の協力医療機関と連携
や協力医療機関等との連携・	ます。また、利用時間帯に薬の服用が必要な場合は、
連絡体制	治医からの指示書をいただくようにしています。
@+\\\	
⑤就学する際の移行支援(学	現状では就学前の学校との連携は特別に設けられている
校との引継ぎ・情報共有等)	せん。
⑥「あい・ふぁいる」の活用	ご利用契約時のアセスメントを取らしていただく際に
	「あい・ふぁいる」を作成されている保護者様からお
	かりする場合があります。
	課題として、昨年同様、職員に「あい・ふぁいる」の
	修を受講する機会を増やしていきます。
①事業所で実施している支援	本人の発達と特性に合わせて教材を使った 自立課題に
(支援内容、プログラムなど	り組んでいます。達成感を得ること将来の自立した生活。
を記載してください。)	や就労に繋がります。
	また、ハサミ、ノリ、テープなどの日用品や道具を活り
	して「微細運動」を中心にした創作プログラムを取りん
	れています。
	お子さま方が積み重ねて練習できるような工夫と課題
	設定して、少しずつでもできることを増やしていきたり
	と考えています。
	また、ご家庭だけでは経験・体験する機会の少ない道具
	や工具、コンピュータ、周辺機器なども積極的に活用
	て療育プログラムに取り入れています。
	日々の歩行訓練では公園、消防署、神社、駅、区役所、
	本屋、田んぼなどに行き近隣の方々と触れ合うことで
	会性の向上を目指しています。
	食育プログラムとしては、おやつクッキング、お昼ご
	クッキングを月に数回実施し、嫌いな食べ物、苦手な
	べ物でも食べられるようになったという事例が多数あ
Over Winds - Line - Lin	ます。
②運営規程、支援内容、利用	契約前の見学時や契約手続きをする際に、施設パンフ
者負担の説明	ット、重要事項説明書をもとにおやつ代、療育材料費、
	利用者負担金についてご説明をしています。

	③保護者からの相談への適切	お子さまの変化に職員が気づいた際には、保護者様に帰
	な対応、必要な助言	宅送迎時にお伝えしています。
		また、施設ご利用時のケガや、子ども間のトラブルなど
		については管理者から保護者に連絡を入れるようにして
5		います。
保	④会報の発行等による活動内	月1回毎月20日前後に次月のスケジュール表として、療
保護者へ	容や行事予定等の定期的な発	育プログラムの内容の案内を保護者様向けに配布してい
	信	ます。
説		昨年から施設での活動内容を保護者様からスマホ等で閲
明青		覧できるようにしました。
の説明責任等		また年1回アンツ美原とアンツ美原オレンジルームをご
ग		利用中の保護者様がお集まりいただき保護者サロンを実
		施しています。(今年は2月7日(火)に開催)
	 ⑤日々の支援内容、利用児の	日々の活動内容をサービス提供記録としてスマホやパソ
	 様子、おやつ等の保護者への	
	 報告	 内容としてはADL(バイタルチェック、体調や排せつ
		 等に関わること)、個々のプログラムの取り組み状況、制
		│ │作物の返却状況、おやつクッキングやお昼クッキングで
		 の食事状況、活動内容、お弁当やおやつの内容、購入物
		など。
	⑥おやつ代等実費徴収してい	ご利用実績に基づいておやつ代と療育プログラムの材料
	る費用に係る領収書の発行、	代、おやつのお買い物の立替金を発生月の翌月に月謝袋
	│ │精算報告	と自動引落しでご請求させていただいています。
		その際、領収書、精算報告をお渡ししています。
		座位保持装置、バギーや車いす等を利用するための身体
	手順、利用児・保護者への説	 固定ベルトの利用対象者に対して身体拘束の同意書を得
	明、計画への記載	 たうえで実施しています。利用にあたっては日々の活動
		記録に使用時間と目的を記載しています。
	8個人情報の適切な取扱い	鍵付きロッカーで利用者の個々のファイルを管理してい
		る。その他の情報に関してはコンピュータシステムにて
		ID、パスワードにより管理している。
	①緊急時対応マニュアル、防	 緊急時対応マニュアル、事故対応マニュアル、感染症マ
6	犯マニュアル、感染症対応マ	ニュアル(簡易版)を設置しています。
韭	ニュアル等の整備と職員、保	職員への周知については月例のスタッフ会議でヒヤリハ
非常時	護者への周知	ット・事故報告が発生都度に緊急時対応マニュアル、事
の		故対応マニュアル使って説明をしています。
対応		また、保護者様への周知は、保護者アンケートを配布す
,,,,,		る際に「施設ご利用時のご案内」を添付しました。
<u></u>		

		②非常災害の計画策定、避	7月と3月に2回の避難訓練を実施しました。
		難・救出・その他必要な訓練	今年は美原消防署の立ち合いでの実施は不可でした。
		の実施	実施日は保護者様にはスケジュール表にてご案内をして
			います。
		③ヒヤリハット、事故の事案	月内のヒヤリハット・事故報告、苦情、忘れ物、利用日
		を収集し再発防止等について	の変更・追加、モニタリングの実施報告、活動プログラ
		事業所内において共有	ムの説明等を中心に情報共有を行っています。
			│ │個々の利用者の特性および自傷、他害行為などを職員が
		ぐための取組等	情報共有する。
			過去のヒヤリハット、事故事例などから施設の改良(内部
			からの鍵施錠や柵の設置など) や支援ルールを周知徹底す
			ること。
		⑤感染症対策の実施	児童の来所時の手指消毒、手洗い誘導、検温を行ってい
			る。窓の換気、サーキュレーター、空気清浄機を設置、
			稼働させている。
			体調不良の職員が回復してから出勤する際は、常備して
			いる抗原検査キットで検査をしてから勤務している。
ſ		①地域との交流	事業所が小規模な商店街にあるため、クッキングの食材
			を隣接するスーパーにお買い物に行ったり、おやつのお
			買い物に駄菓子屋さんや、揚げたてのコロッケを買いに
	7		お肉屋さんに行ったりして地域の方々に接する機会を持
	そ		っています。
	の 他		また、公園遊びや歩行訓練として消防署、神社、駅、区
			役所、本屋さん、田んぼなどに行き、同じく地域の方々
			に接する機会を持っています。
			よくお声がけをいただきます。